

カンボジア便り

カンボジアの学校(សាលា/サーラーリアン)

10月になり、日本は急に寒くなってきたと聞きました。カンボジアは、まだまだ昼間は30度を超える毎日です。私がバタンバン州チア・シム小学校に来てから3週間が経ちました。今回はカンボジアの小学校について紹介します。



カンボジアの小学校は6年生まであります。

日本と大きく違うことは、毎月一回全教科のテストが一斉にあること。日本と同じような通知表がこちらでは毎月渡されます。教科は算数、クメール語(日本だと国語ですね。)、社会科、理科など。音楽と図工は、今は社会科の中に混ざっているようです。体育は、昔からカンボジアでは教えられてこなかったのですが、最近になって授業の時間がきちんと時間割に入れられるようになりました。でも、雨季のようにたくさん雨が降ると学校内が洪水になってしまうので、体育館も無いカンボジアの学校では全く授業ができません。そして、先生方も体育をしたことが無いので、同じ町にいる中学校の体育を教えている JICA 隊員は、カンボジア人の先生とできる体育を一緒に考える、というボランティアをしています。

もう一つは、現在カンボジアでは子どもが多すぎて教室が足りないので、学校に来るのは午前だけ、午後だけとクラスごとに決まっています。午前は6時50分から11時まで。午後は1時から5時まで。40分の授業をそれぞれ5回します。朝早



いため、子どもたちは朝ご飯を学校で食べています。学校の敷地内に食堂と売店があって、家から持ってきていない子は自分で買って食べます。売っている物は、鉛筆やノートなどの筆記用具に、おかし、揚げ物、飲み物、フルーツとなんでもあり。席が足りないので教室にお菓子を持って行って食べる子も。私の学校では授業中は食べてはいけないことになっていますが、日本の子どもたちはうらやましいと思うかもしれませんね。

6年生の授業で「日本の小学校はお昼ご飯に給食を食べるだけで、お菓子は食べない。」と話したら、「健康的ね!」と言っていました。自由に食べることが出来る分、カンボジアの人々は子どもたちが砂糖を摂り過ぎている、とよく話してくれます。

クメール語メモ

カンボジアの人は会おうとよく

「ニャムバーイナウ?」

と聞いてきます。意味は「ご飯食べた?」。食べてない、と言うと色々な物をくれます。ご飯を食べることが、とても大事な文化なのだと思います。